

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

January / 13 / 2023 # 118

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『ジルヴェスターコンサート2022』

[2] Pepeのひとりごと

『バンドジャーナル2月号』

[3] おすすめ動画

『アンブシュアのバランスの違いによる音の比較（トロンボーン&ユーフォニアム）』

『Demondrae Thurman, Oct. 25, 2019』

[4] 演奏のヒント！

『低音域のアンブシュアのセッティング』

[5] 編集後記

[1] 旬な話題、気になる話題

『ジルヴェスターコンサート2022』

12月31日、毎年恒例のジルヴェスターコンサートがびわ湖ホールでありました。

今年はR.Straussの「薔薇の騎士」組曲などに加えてC.Orffの

「カルミナ・ブラーナ」全曲もあって、体力的にかなり大変なプログラムでした（カルミナ・ブラーナ、最後がかなりキツイんです・・・涙）。

当初、カルミナ・ブラーナは全曲ではなかったのですが、のちに「演奏する際にはすべての楽曲をその順番で演奏しなければならない」というルールがあることがわかり（みなさん、知っていました？僕は初耳でした。もちろんうちのオケの事務局も知りませんでした・・・）、急遽全曲演奏という形になった経緯がありました（なので、コンサートの時間も予定よりも長くなってしまいました）。

そんなプログラムの中、ゲストプレイヤーのLugano Percussion Ensembleのために書かれた世界初演の曲が一つあり、その中のImprovisation Soloistというものに選んでいただき、その曲のソロパートを演奏させていただきました。

M.Steinauer氏の書いた「Sott'acqua」という曲だったのですが、まだほとんど解明されていない海中の中の様子を表した曲でした。

与えられたソロパートはImprovisation Soloと書かれている通り、全てImprovisation（即興）で、楽譜は真っ白。演奏開始のところと終えるべきところ（演奏しないところ）、それといくつか作曲家からの「このような感じで・・・」というような言葉が書かれているだけでした。

リハーサルが始まるまで全くどんなものなのか想像できなくてソワソワしていましたが、そのソワソワはリハーサルが始まってもなくなりませんでした（笑）。

リハーサル1日目に作曲家が来るということだったので、空港からびわ湖ホールに向かう際にバスを乗り間違えたようで結局リハーサルには間に合わず（涙）、リハーサル2日目でやっと会うことができました。

リハーサル2日目の終わったあとに作曲家といろいろと細かい話をする事ができて、やっとソワソワ感は消えました。

Improvisationって全く得意ではないのですが、今回の曲は現代曲な感じだったため、これまで自分が取り組んできたコンテンポラリーの曲での経験がとても役になったなあ、と実感しました。まさか、こういう経験ができるとは想像もしていなかったし、これまでの経験、努力がこのような機会に役に立つとは夢にも思っていませんでしたが、それらを経験することができて、本当によかったです。作曲家、指揮の沼尻さんには本当に感謝しています。

今一所懸命勉強している人たちも、ぜひコンテンポラリーの曲の勉強をおろそかにしないで積極的にいろいろとチャレンジしていてもらいたいと改めて思いました。

どんなものの中にも楽しさを見つけられよう、工夫してやってみてくださいね。

[2] Pepeのひとりごと

『バンドジャーナル2月号』

1月10日発売のバンドジャーナル（以下BJ）2月号の中にある特集「ムリなく楽器を鳴らす方法」の中で、トロンボーンとユーフォニアムについて担当させていただきました。

限られた字数の中で、しかも対象は不特定多数の人。かなり大変でしたが、がんばってまとめてみました。 ;)

全くと言っていいくらい説明しきれなかったので、補助的な意味合いの動画も作って紐付けることにしました（本の中では動画のリンク先のQRコードを載せています）。

まあ、こういう条件だと十分に説明しきれないのは仕方のないことですよ。でも、可能な範囲で精一杯のことはできたと思っています。

楽器を吹き始めた中学生の頃からBJ誌にはお世話になってきました。中学校には過去10年以上のBJ誌が本棚にあって、夏休み等のお昼休みのときに少しずつ読んでいました。ワンポイントレッスンは、毎月新しいものが出ると顧問の先生が各パートに印刷をして配ってくれていたなあ。本当にありがたい環境でしたね。 ;)

そのワンポイントレッスンも、2013年（もう10年前！！）にユーフォニアムを担当させていただいて、ほんの少し恩返しをすることができました。

実は、その時も文字だけでの説明に限界を感じていたのと、ちょうどリサーチしてみたところ、ほぼ100%の中高生たちがYouTubeを観る環境があるということだったので（自分調べ。笑）、ワンポイントレッスンでも動画を紐付けてやってみました（初めてそういうことをした人でした！・・・そのあと同じようなことをした人がいるのかどうかは知りませんが）。

ちょうどそのタイミングでこのメールマガジンを始めようと思っていたので、まさかのスタートがかぶってしまって、一人困惑していた（だって、急に締め切りが2つ加わるのですから）のも、今となってはいい思い出・・・（笑）。

興味のある人には、ぜひ手にとって見てもらいたいと思っています。

よろしく申し上げます。

[3] おすすめ動画

『アンブシュアのバランスの違いによる音の比較（トロンボーン&ユーフォニアム）』

<https://www.youtube.com/watch?v=Cq7NU6xFLg8>

今月の1つ目の動画は、今月の「ひとりごと」でも書いたBJ2月号の特集で書いた記事の補助動画です。

これだけ見てもしっかりとわからないと思うので、ぜひBJ2月号を手元において読んでから見てみてください。:)

『Demondrae Thurman, Oct. 25, 2019』

<https://www.youtube.com/watch?v=Pip0KPRIAng>

2つ目の動画は、アメリカのEuphonium奏者、Demondrae（Thurman氏）の演奏です。

彼の演奏の特徴の一つである音の伸びは、この動画でも堪能できると思いますよ。

しかし、こうしていろいろな人の演奏を気軽に聴けるようになったのは嬉しいですねえ。

・・・でも、反対に実際の演奏会に足を伸ばす人（特に専門で勉強している人たち）が減っているのも、最近特に痛感しています・・・。

気軽にいろいろな演奏の動画に触れられる環境が整った今だからこそ、生の、その会場での空気感と一緒に楽しむコンサートの良さを楽しめるようになってもらいたいと切実に思います。

特に専門で勉強している人たちは、演奏だけを聴くことが勉強だと思っているのかなあ??

本当にいい演奏家になりたいのであれば、コンサートに足を運び、その会場でそのコンサートを感じてください。

そうすると、良いこと、あまり良くないことの両方を学ぶことができますよ。

[4] 演奏のヒント！

『低音域のアンブシュアのセッティング』

先月の「響きを作ろう」、いかがでしたか？

もしよかったら、今月号で紹介しているバンドジャーナル誌の中の解説と動画と一緒にまた再確認してみてくださいね。:)

今月は、「低音域のアンブシュアのセッティング」について。
実は、このこともBJの特集の中で触れたかったのですが、限られたスペースの中で居場所を見つけることができませんでした・・・（涙）。

低音域は、高音域や中音域に比べて息のスピードは遅く、そしてアンブシュアのセッティングもゆるくなっていきます。
それは多くの人がすでに知っていて実行していることがと思うのですが、ここで僕がポイントとしているのは、そのアンブシュアのセッティングをゆるめる「具合」についてです。

アンブシュアのセッティングをゆるめてたっぷりの温かい息をゆっくり吐けば、低い音は出ます。
でも、ただその音が「出る」だけでは、音楽演奏に関しては十分ではありません。

低い音を「もっとはっきりとした音で吹きたい」や「大きな音で吹きたい」ということをレッスンで聞くことがよくあります。
そういう場合、ほとんどのケースでアンブシュアのゆるめ方に問題があることが多いようです。

多くの方は、低音域を吹くときに、中音域のアンブシュアからゆるめていって、低い音が出る、または出やすいところを見つけていきます。

それだと、はっきりとした音や大きな音を吹こうとするときに、低い音が当たらなかったり、たくさん息を吐いているのに大きな音が出ないことが起こってしまうことがあります。

では、どうすればいいのでしょうか？

低音域のアンブシュアのセッティングを見つける作業のときに、ゆるい状態から締めていってみてください。
僕のこれまでの経験上、低い音で上に書いたような問題に直面している人たちは、その吹いている音に最適な状態よりもゆるめている状態で吹いていることが多いようです。

例えば、ヘ音記号譜の五線下のFの音を吹くとき、その下のBbの音が出てしまうのではないかとはいくらゆるめていたりもしませんか？
アンブシュアだけではなくて、息のスピードも同時に確認してみてくださいね。

捉え方として、上に書いた低い（ペダルの）Bbの音から「5度上のF」という感じで、下のBbからセットしてみてください（これも息のスピードのことと一緒に）。

そうすると、ゆるめ過ぎ、息のスピードが遅すぎ、ということに気づきやすいと

思います。

こういう作業を経て、自分にとってのちょうどいいセッティングを見つけると、低音域でもはっきりと発音もできるようになりますし、大きな音量でも吹けるようになると思います。

*特に、低い音を大きな音量で吹こうとするときは、より口を広げて（アンブシュアをゆるめて）吹く傾向が強くなると思います。そうするとバランスが崩れて、たくさん息を入れているのに音量が逆に出なくなってしまう、という状況になってしまいます。

低い音域の音でも、下の音から数えて「何度上」という捉え方をしてみてくださいね。

きっと、いいバランスが見つかりやすくなると思います！

編集後記

新年、あけましておめでとうございます。

あっという間に年末年始が過ぎ去って、日常に戻りました。
でも、今年のスタートは、近所のお気に入りの公園にお散歩にいった、最高の空気の中、心地の良い時間を過ごすことができました。

今年も、慌ただしい中でものんびりとした時間を感じられるよう工夫をして過ごしていこうと思っています。

2022年もいろいろなことがあり、いろいろなことを吸収することができました。

2023年も貪欲に、さらにいい経験を積んでいけるよう毎日コツコツと努力をしていこうと思っています。

2022年は、久しぶりにヨーロッパに行くことができました（しかも2回も）。今年も、すでに2月と3月にヨーロッパに行く予定があります。

気分転換も兼ねていると思いますが、そのときそのときを大切に過ごしていきたいと思っています。

2023年もよろしく願いいたします。

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

info@pepeabe.com

©阿部竜之介 『Pepeの視点』
のバックナンバー、配信停止はこちら
<http://www.mag2.com/m/0001601194.html>